

オアシス新聞

第三十三号

つくし だれの子？ スギナの子？

みなさんは何を見聞きした時に春を感じますか？ウグイスのさえずりを聞いた時、桜が咲いた時、チヨウチョが飛んでいるのを見つけたとき……。

春の基準は人によって様々ですが、ツクシを見つけた時、春が来た！と思う人は多いと思います。似たような春を知らせる植物にフキノトウもありますが、フキはどちらかというより野山に近い場所に生えるので、土手や畑だけではなく、ちょっとした道端にも生えるツクシの方が、より身近な春を知らせる植物と言えるでしょう。

春の土手にツクシが生えていると、とってもいとおしく感じたり、また人によってはおいしそう！なんて感じるかもしれません。さてツクシは春先には見かけますが、季節が進むにつれ野山に草が伸びてきて、いつの間にか姿は見えなくなります。ツクシは春を呼びよせる妖精のように、春先にだけあらわれて、その後は消えてしまふのでしょうか？

ところでスギナという緑色のワサワサと茂る草がありますが、杉の葉の様な姿をした草ということで、スギナ（杉菜）と名がついたと言われています。庭に生えて困っているという人も、結構いるのではないのでしょうか。

そしてツクシの本名はスギナと言います。つまりツクシとスギナは同一植物というわけです。抜いても抜いてもなくなり、畑や庭の嫌われ者であるスギナと、かわいらしい姿で春の風物詩として親しまれているツクシが、同じ植物だなんてちょっとショックですね。スギナはシダ植物の仲間なので、花は咲かずに胞子で増えます。春先に出たツクシは胞子茎と呼ばれ、胞子を出す役目を持っています。『つくし 誰の子 スギナの子』なんてフレーズがあり、雰囲気的にツクシはスギナの子供のように見えますが、ツクシがスギナの素となる胞子を作り出しているわけですから、正確には『スギナ 誰の子 ツクシの子』となるのでしょうか？

特別おいしいものでもありませんが、春の味覚としても親しまれているツクシ。ワラビなどのように難しいあく抜きは必要ありませんが「はかま」をとるという作業がひと苦労です。

「はかま」は山菜をとるのが楽しいが処理が大変なものが多い

スギナはなかなかのやっかいものぞ、ツクシの胞子だけで回復し、地下茎で繁殖します。除草しても少しも地下茎が死ななければそこから再生します。

「地獄草」なんて恐ろしい別名も……

シャマ!!
ボンエンマ

スギナの先端にツクシが生えているふしぎな形状をしたものが見られることもありますが、それは突然変異ではなく、イヌスギナという別の仲間です。

スギナのツクシが終った初夏頃にぞこまます。水辺や湿った場所ですギナを見かけたら先端にツクシがついていないか探してみても？